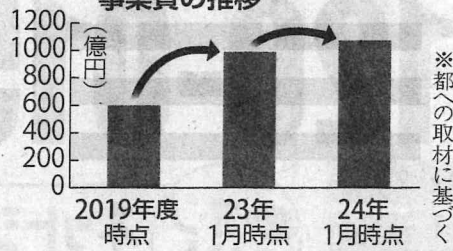


石神井川上流地下調節池の事業費の推移



※都への取材に基づく

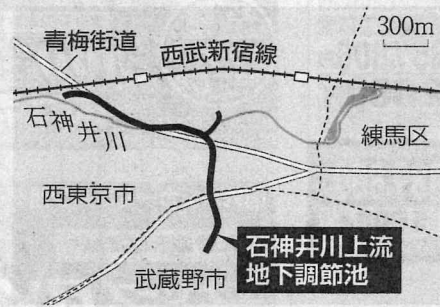
地下調節池事業費1.8倍 石神井川上流 1073億円、資材高騰で

都議会予算委

豪雨時に石神井川が氾濫しないよう、都が武蔵野市などに整備予定の「石神井川上流地下調節池」の事業費が、当初見込みから1.8倍の1073億円に達する見通しであることがわかった。資材価格の高騰などが理由という。

都によると、都は2019年度に事業費を600億円と算出し、23年1月の住民説明会で示した。だが、直後に公表した23年度当初予算案の資料では、事業費は989億円に跳ね上がった。今年1月に公表した24年度予算案の資料では更に値上がりし、1073億円になった。

都が整備を計画している石神井川上流地下調節池。嵐衣里都議は「(当初の金額から)400億円も増え、住民は非常に驚いている」とただした。中島高志・都



技監は、600億円は概算額だったとし、「主要資材の価格が上昇したため」などと説明した。

「さんだ」などと指摘した。調節池は、武蔵野市と西東京市の地下約30メートルに約2キロのトンネルを掘り、雨水など約30万立方メートルをためる。今年2月に準備工事が始まり、完成予定は35年度。